

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：平成31年 3月 1日

事業所名 _____ スケッチブック _____

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		就労に向けて、座って活動が出来るよう、机とイスを設置している	作業を行うには十分なスペースであると思われる。今後、活動に合わせて机の配置を移動させたり、環境を整えたい。
	2	職員の配置数は適切である	○		10名の利用者に対し通常4名の職員を配置	お出掛け等外出支援の時には職員を5名配置し、利用者2人に対して1人の職員が対応できるようにしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	歩行不安定な利用者には必ず1人は付く。	入り口に段差もあるが、スロープも備え付けてある。スロープへの誘導を行うよう心がける。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日のミーティングにおいて職員で話し合い、目標の設定を行う。	児発管を中心として、毎日の活動や個別支援計画についても職員間で話し合いを行いながら目標の設定や活動の振り返りを行うようにしていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1回保護者アンケートを行い、業務改善に生かしている。	保護者アンケートの結果や保護者からの意見を職員間で把握し、話し合いを行う。色々な意見を出し合いながら業務改善につなげていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価結果は今年度からHP上に公表する	保護者評価結果と自己評価結果を公表し、利用者や他の方とも共有していきたい
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	他施設の職員間での評価等を行い改善につなげる	第三者による外部評価は行ってないので、どのように評価していくか検討をしていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修を行った。外部研修に積極的に参加している	外部研修には積極的に参加していきたい。社内研修では今までと変わらず月に1回行っていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		契約時にしっかりとアセスメントを行い、計画を作成していく	アセスメントでの情報を職員全員で把握をし、個別支援計画を作成していく。また、毎日の支援の中で生かしていきたい
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		現在は厚労省が勧めるアセスメントツールをしようしている。	現在、今のアセスメントツールをもとにさらに使いやすいものにならないか各施設の児発管が集まり検討を進めている。より良いものにしていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		施設長を中心にプログラムの立案を行う	職員間で意見を出し合いながら、より良い活動が出来るよう活動プログラムの立案を行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同じ作業でも方法を変えながら行っていく	就労に向けての作業が多く、マンネリ化しやすいため方法を変えたり種類を変えるなど、職員で話し合いながら工夫をしていきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日と休日では活動内容を考え支援を行う。	平日は作業を中心とし、座って行う活動を取り入れる。休日は、食育や外出、音楽療法を取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動、集団活動を考えながら計画を作成し支援を行う。	活動の内容や利用者のその時の状態に合わせて個別での対応を行ったり、少しでも集団活動に参加できるよう職員間で考えていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日ミーティングを行い活動内容や支援の仕方を確認する	毎日のミーティングを大切にしていきたい。その日の活動内容や支援の在り方、役割分担などしっかりと確認し、活動に取り組んでいきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	翌日のミーティングの時に必ず振り返りを行う。	終了後の振り返りがなかなか行えないため、翌日のミーティングの時に振り返り、今後の支援につなげていく。終了後には気づいた点は職員間で報告するよう努めている
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳と活動日誌に記録する	個々の連絡帳に職員がその日の様子や活動内容を詳しく記入していく。その内容を踏まえ、次の支援につなげていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い計画の見直しを行っている。	今後も定期的にモニタリングを行い計画の見直しを行っていききたい。さらに、長い期間の利用者さんに対しては必要に応じて再アセスメントも行っていきたい。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		活動が偏らないようバランスを考え活動を組み立てる。	ガイドライン総則の基本活動を常に意識して活動計画を作成し、個の成長、自立を目指して支援を行っていききたい	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	その子に最も精通した職員を中心に複数の職員が会議に出席している	サービス担当者会議の前には職員間で利用者さんについての話し合いを行い、意見を参考にしながら児発管が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校への送迎時に学校での様子や体調の変化等を担任の先生から情報を得ている。	学校の年間計画はHPから情報を得ている。学年によって行事が異なる場合は保護者から連絡を頂き、学校に確認を取る。翌日の施設利用予定は、月末までには学校にお知らせしている。今後も学校との正確な連絡調整に心掛けたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	現在、医療的ケアが必要な利用者がいない	現在、医療的ケアを必要としている利用者がいない。また、医療的ケアが必要な子どもを受け入れる体制が整備されていない。今後必要な場合、体制を整えられるよう努力していきたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	中高生が多く、社内において他施設からの情報共有を大切にしている。	就学後、社内のお施設を利用している子どもが多いため、他施設での様子等情報共有を行っている。また、保護者様とのアセスメントをしっかりと行っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	弊社生活介護「スケッチ」等の連携を密にし、情報共有を心がけている。	現在、当施設から高等部を卒業する生徒のほとんどが弊社生活介護「スケッチ」を利用されている。スケッチの利用にあたり、スケッチ職員への申し送りを行う。他施設を利用する場合でも同様に情報を提供していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	児童発達支援センター等の専門機関が行う研修会等に来る限り参加している	児童発達支援センター等の専門機関や大垣市障がい福祉課が主催する様々な研修会に積極的に参加できるように心掛けている。今後も積極的に参加し、支援につなげていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	障害のない子どもとの交流の機会がなく、どのように機械を設けるか検討している	障害のない子どもとの交流の機会がなく、そのような活動を取り入れることもできていない。今後、どのような形で交流の場を設けるかを職員間で話し合い、検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	自立支援協議会参加の案内を頂いた時には必ず参加している。	今後も積極的にこうした会に参加したいと考えている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡帳への記入を大切に、送迎時には活動の様子をしっかりと伝えられている	連絡帳で活動の様子を詳しく記入し、送迎時にも活動の中で、出来たことや頑張ったことを伝え、保護者様からのお話を聞きながら子供との共通理解を図っていききたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	保護者会の時、講師を招き障害や子育てという視点からお話をしてもらっている	職員間で専門知識を勉強し身に付けながら、保護者に対して障害や子育てのアドバイスが出来るようにしていきたい	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の時に理解して頂けるよう丁寧に説明している	今後も契約時に保護者にはしっかりと説明を行い、変更がある場合には必要に応じて理解して頂けるよう丁寧に説明をしていきたい
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	保護者からの相談は出来る限り対応している	保護者からの相談に対し、専門的な立場からアドバイスが出来るよう日々勉強をしていき。また、自分たちの経験や他の職員からの意見を聞きながら対応していきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	年に1回ラディアント放課後デイ4施設合同で保護者会を開催している	毎年保護者会を開催しているが、アンケートの中で「保護者同士の連携がはかれていない」という意見があった。今後、保護者同士の連携が図れるような場を設けることを検討していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情があった時は職員間で情報を共有し、対応策を考えていく	どんな苦情等でも職員全員で情報の共有をしていき、対応について話し合い迅速に対応していく。謝罪が必要な時は誠意をもって謝罪をし、必ず報告することを今後も徹底していきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月発行の新聞とHPで活動の様子を伝えている	毎月1回発行の新聞とHPでのブログで活動の様子を伝えている。今後も継続していき、ブログの更新を増やしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○	個人情報の取り扱いには十分注意している	今後も個人情報の管理に細心の注意を払っていきたい
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	連絡帳には子供の様子が分かりやすいように考えて書いている	連絡帳や新聞等、保護者に届けるものは、子どもの様子等が分かりやすい表現を意識して取り組みたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	地域との関わりがほとんど持っていない	事業者周りや近くのグラウンドの清掃を行う事もあるが、地域との関わりがほとんどないため、今後活動の在り方を検討していきたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	全ての対応マニュアルを整えている。	全ての対応マニュアルを整えているが、保護者に対してマニュアルの内容をお伝え出来ていないので、保護者の方にも伝えていけるようにしたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に2回災害と水害の避難訓練を実施している	年2回災害と水害の避難訓練を行っています。今後も続けて訓練を行い、子どもたちに訓練の大切さを伝えていきたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	全職員対象の虐待防止研修を会を実施している	今後も社員研修の一環として社内の虐待防止研修会を実施していきたい。その他にも社外の研修に積極的に参加していきたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在その対象となるような利用者はいない	今後、やむを得ず身体拘束を必要になる時には、しっかりと体制を整えていきたい。また、保護者の方にもその日の様子をしっかりと伝え、情報の共有をしていきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者の方からアレルギーの有無について確認している	アセスメントの時に、アレルギーの有無を保護者の方からしっかりと確認し、今後も対応をしていきたい
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット・事故報告書を作成して共有している	ヒヤリハット・事故報告書を作成し、全員で共有している。報告書を管理職に報告しアドバイスを頂きながら今後の支援につなげている。今後も徹底していきたい。